

第27回高分子分析討論会

(高分子の分析及びキャラクタリゼーション)

—参加募集—

主催 (公社)日本分析化学会高分子分析研究懇談会
 協賛 (公社)日本化学会, (公社)高分子学会ほか
 高分子分析・特性解析全般に関する討論です。高分子分析は物性発現機構を解明し、構造設計の指針を得る基盤であり、その重要性への認識は高まっています。高分子分析・キャラクタリゼーションを対象とした本討論会の内容は、化学的手法、分光的手法、各種クロマトグラフ法、熱分析法などによる組成、分子構造、高次構造、構造と物性の相関、物性発現機構、重合機構等の解析に関する基本原理、手法開発、解析事例などに及びます。

期日 2022年10月27日(木)・28日(金)

会場 名古屋国際会議場白鳥ホール〔愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-1〕

内容 一般参加者によるポスター発表および特別講演2件を予定しております。優秀なポスター発表へは表彰を行います。開催に先立って2分半の概要説明動画の配信を行います。

討論会プログラム

第1日(10月27日)

開会挨拶(9:50~10:00)

ポスター発表I(10:00~12:00)

休憩

特別講演I(13:30~14:30)

「高分子分析討論会との関わりを振り返って」

(名古屋工業大学大学院工学研究科)大谷 肇先生

ポスター発表(14:30~16:30)

第2日(10月28日)

アナウンス(9:55~10:00)

ポスター発表III(10:00~12:00)

休憩

ポスター発表IV(13:30~15:30)

特別講演II(15:40~16:40)

「サブライチェーンの擦り合わせ力強化のための材料診断技術」

(産業技術総合研究所)佐藤浩昭先生

ポスター賞授与、開会挨拶(16:50~17:10)

参加費(税込)

予約登録(10月6日締切):一般10,000円,学生:2,000円,

当日登録(10月7日以降):一般14,000円,学生:3,000円

参加登録方法 参加希望者は参加登録を高分子分析研究懇談会ホームページからお申し込みください。10月26日までに申し込み・参加費振込がない場合は参加できませんのでご注意ください。なお、入金された費用については参加の有無に関わらず返金できませんので、予めご了承ください。

振込口座 りそな銀行五反田支店 普通1330829 (公社)日本分析化学会高分子分析討論会

申込先 高分子分析研究懇談会ホームページ

(http://www.pacd.jp/)

問合先 高分子分析討論会実行委員

[E-mail: pacd-touron@pacd.jp]

ポスター発表I

I-01 透明樹脂材料の劣化に関する総合的解析(神奈川県産技研)○村上小枝子, 田中聡美, 加藤千尋, 津留崎恭一, 武田理香, 羽田孔明, 高橋 亮, 長沼康弘

I-02 太陽電池封止材の劣化に及ぼす各種劣化因子の影響(東北大院環境科学, 東北大研究機構新領域創成部, DOWA エコシステム㈱, フロンティア・ラボ㈱, 東北大院理学)○小林大樹, 熊谷将吾, 亀田知人, 森田宜典, 齋

藤優子, 白鳥寿一, 渡辺 聡, 寺前紀夫, 渡辺忠一, 吉岡敏明

I-03 MALDI-MS及び熱分解GC-MSによるポリブタジエンの加硫反応機構の解析(名工大院, 住友ゴム工業)○稲葉主斗, 大谷 肇, 海野祐馬, 吉谷美緒, 北浦健大, 山田宏明

I-04 ポリマー試料の迅速粉碎装置の開発と応用(フロンティア・ラボ, 東北大)○佐藤真純, 斎藤 豪, 渡辺聡, 渡辺忠一, 寺前紀夫

I-05 Py-GC/MSを用いた高分子材料中のTSCA規制物質の分析(アジレント・テクノロジー㈱GC・GCMS営業部)○加賀美智史, 穂坂明彦, 中村貞夫

I-06 解析ソフトウェアを用いた熱分解GC/MSによるマイクロプラスチック混合物の定量評価(名工大院)○村田夏菜, 大谷 肇

I-07 Pythonを用いた時間依存赤外スペクトルのデータ解析(大阪電通大)○森田成昭

I-08 PEGが共存する際のメチルセルロースヒドロゲルのゲル化過程と水の状態に対する塩の影響(神奈川大理)○芹澤咲耶, 左古有美香, 西本右子

I-09 耐酸素フィラメントの開発と酸化雰囲気TG-MSへの応用(日本電子㈱)○福留隆夫, 阿部吉雄, 加藤俊幸, 八幡行記, 生方正章

I-10 非水溶性合成高分子のサイズ別分離のためのオルガノゲル電気泳動の開発(名工大院)○杉村祐一郎, 北川慎也, 大谷 肇

I-11 多摩川水系で採取した河床堆積物の天然有機物分析(明大院理工, 明大研究・知財, 明大理工)○猪瀬聡史, 永野天大, 永井義隆, 本多貴之, 小池裕也

I-12 ペルオキシダーゼ様活性を有する高分子修飾シリカマイクロビーズ(東京薬科大薬学, 東京薬科大生命科学)○守岩友紀子, 森岡和夫, 井上嘉則, 柳田顕郎, 東海林敦

I-13 希酸系兼触媒として炭酸カルシウムを用いたマイクロプラスチックの熱分解GC/MS分析条件の検討(フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大)○石村敬久, 渡辺忠一, 寺前紀夫, 大谷 肇

I-14 ナノプラスチック分析のための誘電泳動法を用いたナノ粒子サンプリング法の検討(名工大院工)○海老名美歩, 飯國良規, 大谷 肇

I-15 漆塗膜への封管熱分解物回収法の適用(明大院理工, 明大理工)○永野天大, 本多貴之

I-16 水流と接した状態での高分子材料の赤外分光分析(大阪電通大院工, 大阪電通大院工)○真木豊治, 森田成昭

I-17 GC-TOFMSスペクトルに対する機械学習を用いた構造解析手法の高分子材料への応用(日本電子㈱)○生方正章, 窪田 梓, 久保 歩, 長友健治

I-18 エレクトロスプレーイオン化イオンモビリティタンデム型質量分析法による鎖状・環状ポリオキシメチレンの精密解析(名工大, ポリプラスチック)○堀 桃歌, 森本雄貴, 北川慎也, 大谷 肇, 川口邦明, 阿久津裕明

I-19 発生ガス質量分析-主成分分析(EGA-MS-PCA)による複合材料の界面構造と機能の相関解明(産総研機能化学研究部門)○渡邊亮太, 菅原明希, 萩原英昭, 水門潤治, 新澤英之

I-20 X線散乱測定を利用したプラスチック成形品の分析(産総研, 広島県西部工業技術センター)○古賀舞都, 藤本真司, 丸本 翼, 青柳 将, 田平公孝, 新澤英之

I-21 In-Source CIDによる高分子型HALSの定性手法開発(㈱東レリサーチセンター)○李 茜, 秋山 毅, 日下田成, 松田景子

I-22 LDIRによるマイクロプラスチックのIRスペクトルと形状パラメータの検討について(アジレント・テクノロジー㈱)○芹野 武, 金岡 智, 親泊安基

ポスター発表 II

- II-01 直接導入-高分解能 MS および KMD 解析によるポリプロピレンの劣化評価 (株)東レリサーチセンター) ○川口佳奈子, 日下田成, 松田景子
- II-02 含硫黄樹脂アウトガスによる金属の硫黄腐食評価 (群馬県立群馬産業技術センター) ○綿貫陽介, 恩田紘樹
- II-03 熱硬化性ウレタン/シリカナノコンポジット材料の硬化挙動解析 (名大院工, 産総研機能化学, 産総研機能化学, 北大院工) ○石田崇人, 渡邊亮太, 萩原英昭, 北垣亮馬
- II-04 DART-昇温加熱デバイスを用いた製造現場における揮発成分の解析 (日本ゼオン(株)) ○西原智史
- II-05 化学分解 - GC/MS 法による架橋シリコンゴムの微量構造の分析 ((一財)化学物質評価研究機構高分子技術部) ○藤原篤男, 三輪輪史, 菊地貴子
- II-06 ジベンズアゼピン化合物によるエポキシ樹脂の硬化および蛍光測定による硬化モニタリング (名古屋市工業研究所) ○林 英樹, 石垣友三, 小田三都郎
- II-07 微小量固体ポリマーの熱分解 GC/MS 分析の再現性 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○佐藤眞純, William Pipkin, 斎藤 豪, 渡辺 壺, 渡辺忠一, 寺前紀夫, 大谷 肇
- II-08 XRF と熱分解 GC/MS を用いたデクロランプラスおよび UV328 の簡易スクリーニング分析 (オムロン(株), (株)島津製作所) ○柳井健太郎, 辻畑仁美, 工藤恭彦, 北野理基, 田中幸樹, 近藤友明
- II-09 合成高分子材料のイメージング質量分析における走査電子顕微鏡で作成した機械学習モデルを用いた画質改善と統計解析への活用 (日本電子(株)) ○佐藤貴弥, 武井雅彦, 田辺伸聡, 植松文徳, 大竹祐香, 藤井敦大, 加藤大樹
- II-10 微小マイクロプラスチックの誘電泳動捕獲・分離における分散媒体組成の泳動挙動への影響 (名工大) ○中西 航, 北川慎也, 飯國良規, 大谷 肇
- II-11 窯業系サイディングの乾湿繰り返しによる水蒸気吸着特性変化 (群馬県立群馬産業技術センター, ベスト資材(株)) ○恩田紘樹, 黒崎紘史, 塚本さゆり, 杉山乃祐, 佐藤和則
- II-12 MI を指向した分析データの Python による取り扱いと活用例 (旭化成(株)基盤技術研究所) ○半村和基, 武井祐樹, 坂部輝御
- II-13 GPC 溶出成分の直接サンプリングとマスイメージング技術の組み合わせた合成高分子分析の効率化検討 (日本電子(株), 産総研機能化学, (株)エス・ティ・ジャパン) ○渡邊直美, 佐藤貴弥, 中村清香, 大石晃広, 佐藤浩昭, 杉本哲也, 小林恒夫
- II-14 FT-IR 法を用いた有機無機複合材中のシランカップリング剤の縮合度評価 (旭化成(株)サステナブルポリマー研究所ポリマー基盤技術開発部) ○鈴木裕貴子, 美河法子, 鈴木 薫, 渡邊次郎, 佐藤幸司
- II-15 各種分析法を用いた耐熱性耐腐食性接着剤の探索 (株)荏原製作所解析・分析技術課) ○近 隼也
- II-16 水溶性高分子を加湿する過程の時間依存赤外分光 (大阪電通大工) ○菊田翔吾, 森田成昭
- II-17 RI-polt を用いた炭化水素系高分子の構造キャラクターゼーション (住友ゴム工業, 産総研) ○海野祐馬, 北浦健大, 山田宏明, 中村清香, 佐藤浩昭
- II-18 反応熱分解 GC-TOFMS による紫外線照射したポリエチレンテレフタレート構造変化の解析 (日本電子(株)) ○窪田 梓, 佐藤貴弥, 久保 歩, 生方正章
- II-19 MALDI-高分解能 TOFMS を用いた脂肪族コポリエステルの共重合組成分布解析法の開発 (産総研) ○中村清香, 金山直樹, 萩原英昭, 佐藤浩昭
- II-20 ウレタン樹脂骨格中のポリオール成分の分析 (DIC

(株)) ○植野上博之, 草野大輔, 大木 章

- II-21 溶媒媒介化学イオン化 (SMCI) 法を用いたオレフィンの二重結合位置解析 (株)島津製作所) ○石井寿成, 北野理基, 辻畑仁美, 近藤友明
- II-22 標準ポリスチレンを内部標準に用いた DOSY 法による多分散 PMMA の平均分子量と分子量分布の測定 (徳島大院創成科学) ○渡邊 颯, 高松京佑, 徳田規紘, 右手浩一

ポスター発表 III

- III-01 卓上型 MALDI-TOFMS と統計解析ソフトを用いた Poly (butylenesuccinate) の劣化分析 (株)島津製作所) ○田中海成, 山崎雄三, 川口惇史
- III-02 Py-APGC-Q-TOFMS を用いた飽和脂肪酸の直接分析の検討とポリエチレンの劣化追跡への利用 (名古屋市工業研究所) ○山中基資, 林 英樹, 丹羽 淳
- III-03 高分子材料の加速的な海洋生分解性試験法の開発 (化学物質評価研究機構, 九大院統合新領域, 九大院工) ○尾坂奈生, 田口浩然, 松野寿生, 田中敬二, 菊地貴子
- III-04 シリル化剤を用いる反応熱分解 GC/MS によるアクリル系粘着剤中に含まれるアクリル酸の定量分析 (フロンティア・ラボ, M&W リサーチ, 東北大, 名工大) ○松枝真依, 石村敬久, 浅井 聡, 寺前紀夫, 大谷 肇
- III-05 GC/Q-TOF によるペンタエリスリトールテトラアクリレート試薬中不純物の構造推定 (アジレント・テクノロジー(株)) ○小笠原亮, 中村貞夫
- III-06 加齢毛の水分挙動と毛髪内部タンパク質の変性について (クラシエホームプロダクツ(株)ビューティケア研究所, 大阪電通大工) ○布施直也, 森田成昭, 松江由香子
- III-07 ポリマー中の微量添加剤とポリマー主成分の自動連続測定を可能とする新規ダブルショットパイロライザー GC/MS 法の開発 (フロンティア・ラボ, 東北大, 名工大) ○鄭 甲志, 渡辺忠一, 寺前紀夫, 大谷 肇
- III-08 誘導体化法を用いないジソシアネート類の定量分析の検討 (アイシーケイ(株), 日本ウォーターズ(株)) ○山野太幹, 藤田 恒, 山田光一郎, 一木満貴子
- III-09 石英繊維フィルターに捕集した大気マイクロプラスチックの熱分解 GC/MS による分析 (徳島大院理工, 徳島大薬, 名工大院工, 東北大, フロンティア・ラボ) ○水口仁志, 竹田大登, 木下京輔, 竹内政樹, 高柳俊夫, 大谷肇, 寺前紀夫, William Pipkin, 松井和子, 渡辺 壺, 渡辺忠一
- III-10 コアシェル型アクリルエマルションの分析 (DIC (株)) ○山口潤也, 武野真也, 尾形美澄, 仲村仁浩, 雨宮晶子, 大木 章
- III-11 プラスチック分析における各種の昇温-アンピエン トイオン化質量分析法の検出特性 (株)バイオクロマト, 山梨大) ○山下 藍, 島田治男, 西口隆夫, 志田保夫, 平岡賢三
- III-12 キトサンモノリスの作製と 3D 細胞培養への応用 (東京薬科大学薬学部, 東京薬科大学生命科学) ○東海林敦, 加藤駿之介, 森岡和夫, 守岩友紀子, 井上嘉則, 柳田顕郎
- III-13 PY-GC-MS および TG-MS における窒素ガスの利用検討 (日本電子(株)) ○阿部吉雄, 福留隆夫, 窪田梓, 生方正章
- III-14 グラジエント溶離 HPLC を用いた両親媒性ポリマーの分析条件の検討 (アジレント・テクノロジー(株)) ○野上知花, 熊谷浩樹, 澤田浩和
- III-15 光硬化樹脂原料における構造解析と効率化 (日本ウォーターズ) ○安東友繁, 倉橋聡実, 江崎達哉
- III-16 二次元ラマン相関マッピングによる樹脂-フィラー間の界面状態の分析 (産総研) ○新澤英之, 板坂浩樹

- III-17 PyGC-APGC-QToFMS法によるフッ素系撥水スプレー剤の分析(日本ウォーターズ(株), 国立環境研究所)○宮脇俊文, 江崎達哉, 松神秀徳
- III-18 和周波発生分光法を用いた熱可塑性樹脂/石英界面の分子配向分析(産総研)○犬東 学, 渡邊宏臣, 青柳将
- III-19 分光法を用いたフッ素ポリマー PFA の組成分析(AGC(株)先端基盤研究所)○前田尚生, 本間 脩
- III-20 樹脂・材料解析におけるLC/MSの①精密質量測定の利用と②データ解析ソフトウェアへの要望(神東塗料(株)技術部門分析研究部)○土田好進, 美野成昭, 倉島和泉, 道上美峰
- III-21 ラマン分光法を用いたゴム中のポリマーモルフォロジーの可視化(住友ゴム工業, 産総研)○柴田祐介, 古川剛志, 板坂浩樹, 新澤英之
- III-22 EPDMのDOSYスペクトルの多変量解析によるノイズ除去とその効果(徳島大院創成科学)○徳田規紘, 平野朋広, 右手浩一

ポスター発表IV

- IV-01 ESCAによるエンジニアリングプラスチックの表面劣化解析(株東ソー分析センター)○中西健太, 津川直矢
- IV-02 脱離エレクトロスプレーイオン化質量分析計による屋外暴露と促進試験の相関解析(大日本印刷)○柴田貴史
- IV-03 試料観察TGとEGA-IA/MSによるロケット燃料用多成分系熱可塑性樹脂の相変化反応の解析(日本大学, 千葉工業大学, (株)神戸工業試験場, 産総研, (株)型善, 宇宙科学研究所/宇宙航空研究開発機構(ISAS/JAXA))○坂野文菜, 和田 豊, 三島有二, 津越敬寿, 加藤信治, 堀 恵一
- IV-04 高分解能質量分析計による紫外線硬化樹脂中における重合禁止剤の同定法(日本ウォーターズ(株))○倉橋聡実, 安東友繁, 江崎達哉
- IV-05 イオンモビリティおよびパターンターゲティングソフトウェアを使用したポリマーの検出と識別(日本ウォーターズ(株))○佐藤信武, Jeff Goshawk, Andrew Tudor, Isabel Riba, Rachel Sanig
- IV-06 ラマン分光法を用いた重水素化分子鎖の直接観察によるポリエチレンの変形メカニズム解明(北陸先端科学技術大学院大学, 広島大学大学院)○木田拓充, 田中 亮, 塩野 毅, 山口政之
- IV-07 カルダノール誘導体を用いた熱硬化性塗膜の開発(明大院理工, 明大理工)○長田暁斗, 本多貴之, 小川熟人
- IV-08 アルミニウムとエポキシ接着剤界面の接着力に影響する各種表面因子の評価(株豊田中央研究所分析研究領域)○岩井美奈, 光岡拓哉, 井川泰爾, 安孫子勝寿
- IV-09 アクリロニトリル, スチレン, α -メチルスチレンを成分とするコポリマーブレンドの¹H NMRスペクトルの多変量解析(徳島大院理工, 日本エイアンドエル(株))○上池亮太, 平野朋広, 右手浩一
- IV-10 TG-FTIRを用いた高分子評価への応用例(サーモフィッシャーサイエンティフィック(株), (株)リガク)○服部光生, 有井 忠
- IV-11 熱分解-GC/MSにおけるヘリウム消費削減に関する諸検討(アジレント・テクノロジー)○穂坂明彦, 加賀美智史, 中村貞夫
- IV-12 カシューナッツシェルリキッド(CNSL)由来ポリウレタン樹脂塗料の開発(明大院理工, 明大理工)○土佐恵美里, 本多貴之
- IV-13 IR測定のための各種材料の前処理方法検討(株日本サーマル・コンサルティング)○清水夕美子, 馬殿直樹, 浦山憲雄

- IV-14 MALDI-イオンモビリティ-TOFMSを用いた低分子量ポリマーの高感度測定(ブルカージャパン(株))○工藤寿治, 蕪澤 崇
- IV-15 GC-TOFMSスペクトルに対する機械学習を用いた構造解析手法の開発(日本電子(株))○久保 歩, 窪田梓, 石岡春樹, 樋詰拓洋, 生方正章, 長友健治, 岩淵晴男, 吉田光良, 植松文徳
- IV-16 ポリアクリル酸の誘導体化によるMALDI-TOFMSでのイオン化効率向上と構造解析への活用(日本電子(株))○橋本将宏, 佐藤貴弥, 岩淵晴男
- IV-17 熱分解GC/MSとPCAを組み合わせた架橋樹脂の構造解析(三菱ケミカル(株)分析物性研究所大阪グループ)○前中佑太, 新井啓矢
- IV-18 高質量分解能質量分析法と核磁気共鳴分光法を用いた結晶性の異なるポリエチレンテレフタレート(PE)の構造解析(日本電子(株), 産総研機能化学)○佐藤貴弥, 窪田 梓, 生方正章, 朝倉克夫, 吉田恵一, 中村清香, 渡邊亮太, 山根祥吾, 萩原英昭, 佐藤浩昭
- IV-19 イソフタル酸共重合PBTの¹³C NMRによる連鎖構造解析(三菱ケミカル(株))○松原康史, 梶本菜穂子
- IV-20 DOSY-NMRを用いた両親媒性シリコーンの詳細構造解析(花王(株), 徳島大院社会産業理工学)○石田明子, 振角一平, 右手浩一
- IV-21 ペルフルオロスルホン酸膜の配向状態と含水時の収縮挙動(AGC(株)先端基盤研究所共通基盤技術部分析科学チーム)○本間 脩
- 本プログラムは今現在の予定であり, 最終的に変更が生じる場合もあります。

2022年度関東支部

「新世紀賞」・「新世紀新人賞」候補者募集

関東支部では2000年より新世紀賞および新世紀新人賞を設け, 表彰を行っています。適当な候補者がおられましたら, ご推薦の程お願いいたします。

新世紀賞資格 ①原則として, 2022年4月1日現在で満39歳以上54歳以下の者で関東支部所属の正会員。ただし, 上限年齢を超えても受け付ける場合がある*。②研究業績は, 本会論文誌又はその他の論文誌に公表されたものを含まなければならない。③受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は, 主たる研究者について適用する。④候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする(自薦を含む)。

*上限年齢は, 研究職からの異動, 産休・育休, また長期療養などのライフステージを考慮する。

新世紀新人賞資格 ①2022年4月1日現在で満38歳以下の関東支部所属の正会員または学生会員。②研究業績は, 本会論文誌又はその他の論文誌に公表されたものを含まなければならない。③受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は, 主たる研究者について適用する。④候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする(自薦を含む)。⑤ただし, 日本分析化学会奨励賞受賞者は除く。

提出書類

新世紀賞 ①推薦書[関東支部HP(<https://kanto.jsac.jp/award/>)よりダウンロード], ②推薦理由書[A4判を縦(1行45字×40行)に使用し, 本文及び文献リスト(主要論文等)を合わせて3ページ以内で作成すること], ③添付資料[特に重要な論文の別刷, その他審査の参考となる資料]

新世紀新人賞 ①推薦書[関東支部HP(同上)よりダウンロード], ②推薦理由書[A4判を縦(1行45字×40行)に使用し, 本文及び文献リスト(主要論文等)を合わせて3ページ以内で作成すること], ③添付資料[特に重要な論文・

特許等の写し、3編以内]

提出方法 上記書類を電子ファイルとし、推薦者より書類提出先記載のE-mailアドレス宛送信(cc:候補者)のこと。(ただし自薦の場合は候補者より送信。いずれも押印不要。)①、②についてはそれぞれ1件のファイルとすること。③については複数のファイル送付も可とするが、必要最小限とすること。(いずれもPDFファイルを推奨。)なお、事務局にてメールおよびファイルを受信後、受領通知が送信されるので、確認の上、受領通知のメールは保管のこと。送信後1週間以内に受理通知が届かない場合は書類提出先アドレスに必ず問い合わせのこと。

締切日 2022年10月31日(月)必着

書類提出先 日本分析化学会関東支部事務局
[E-mail: kanto@jsac.or.jp]

第35回新潟地区部会研究発表会 —プログラム—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部・同新潟地区部会
期日 2022年11月18日(金)13時から
会場 新潟大学五十嵐キャンパス物質生産棟1F-161室*
[新潟市西区五十嵐2の町8050]
プログラム*

13.00~13.05

開会の辞 佐藤眞治 新潟地区部会長(新潟薬科大)
支部長挨拶 津越敬寿 関東支部長(産総研計量標準総合センター)

13.05~13.50 特別講演

(座長 新潟薬科大 佐藤眞治)
発生気体分析-質量分析の高度化(産総研計量標準総合センター物質計測標準研究部門)○津越敬寿

14.00~15.15 一般講演

(座長 新潟大学 則末和宏)
講演1 薬物の消化管吸収に及ぼす経腸栄養剤の影響(新潟薬大¹, 医療法人愛広会新発田リハビリテーション病院²)○桑原直子¹, 清水(太田)美穂¹, 不破史子¹, 佐藤則泰², 継田雅美¹, 佐藤眞治¹, 中川沙織¹

講演2 ICP-MD法によるヨウ素の分析(新潟県環境衛生研)○田中教雄

講演3 第四級アンモニウムで修飾したセルロースの特性評価および水溶液中からの陰イオン界面活性剤(ドデシル硫酸ナトリウム)の吸着法の検討(新潟大院¹, 新潟大工², 秋田大院³)○ZOU Ming¹, 宮本直人², 狩野直樹², 大川浩一³

(座長 新潟大学 松岡史郎)

講演4 新潟市のヘリウムガス不足対応(新潟市水道局)○川瀬悦郎

講演5 新潟県内河川におけるマイクロプラスチック調査(新潟県保環研)○高橋修平, 茨木 剛, 旗本尚樹, 長谷川翔, 武 直子

15.30~16.30 ポスターセッション

16.50~

表彰式

閉会挨拶 佐藤眞治 新潟地区部会長(新潟薬科大)

参加費 無料

*対面とZoomを用いたハイブリッド形式で実施予定です。Zoomによる参加を希望される場合には、下記まで直接お申込みください。ZoomのID等をお知らせいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により開催場所や開催方式を変更する場合があります。その場合は、メール等で速やかにお知らせいたします。

申込・照会先 〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学理学部 則末和宏 [電話・FAX: 025-262-6359,
E-mail: knorisue@env.sc.niigata-u.ac.jp]

第377回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

キラル化合物の重要性が様々な分野で認識され、キラル分離は必要かつ不可欠な技術となっています。キラル固定相を用いると、誘導体化を行うことなく直接キラル分離が可能ですが、現在、メカニズムの異なる数多くのキラル固定相が市販されています。その他、キラル誘導体化法が効果的な場合もあり、キラル分離においては、試料や分析種、分析目的に応じて、最適の方法を選択することが重要です。本例会では、キラル分離におけるメソッド開発やアプリケーションに関する様々なテクノロジーを紹介していただきます。

期日 2022年11月22日(火)13.00~17.00

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 キラル分離—メソッド開発とアプリケーション—

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.10)

(株住化分析センター)西岡亮太

1. 新規軸不斉試薬を用いたキラルアミノ酸分析法の生体試料分析への適用(13:10~13:45)

(味の素株)中山 聡

(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

2. 耐溶剤型キラルカラムでの分離成功への近道II
~CHIRALPAK IG, IH, IJ, IKによる進化~
(13.45~14.20)

(株ダイセル)大西崇文(LC分析士初段)

3. 迅速かつ網羅的なD, L-アミノ酸分析法の腸内フローラ研究への応用(14.20~14.55)

(株島津製作所)伊藤友紀

(LC分析士初段, LC/MS分析士初段)

休憩(14.55~15.15)

4. ハイスペックなキラル分取を達成するための最新注入&検出&回収メソッド紹介(15.15~15.50)

(日本分光株)寺田明孝

(LC分析士三段, LC/MS分析士二段, IC分析士初段)

5. SUMICHIRAL® 50年の歩み(15.50~16.25)

(株住化分析センター)西岡亮太(LC分析士三段)

6. 総括「キラル分離」(16.25~17.00)

(東京理科大学)中村 洋

(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員:1,000円, 協賛学会(日本分析化学会, 日本薬学会, 日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員:3,000円, その他:4,000円, 学生:1,000円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円)。締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 2022年11月15日(火)
(入金締切時刻:15時まで)

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申込みください。

2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第377回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付

(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。

3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合、参加申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。なお、一旦納入された参加費は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2022年11月16日以降に①例会サイト入場 URL と②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場 URL をお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会参加費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込（→例会ごとに振り込んでください）
2. 複数参加者の参加費の同時振込（→参加者ごとに振り込んでください）
3. 年会費や他の費用との合算振込（→費目ごとに振り込んでください）

申込先 <https://forms.gle/qnmQ4JxuBoQyse1x5>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店（普通）1754341 口座名：シャ）ニホンブンセキカガクカイ

公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

問合せ先（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人（株）住化分析センター 西岡亮太
[E-mail: nishioka@scas.co.jp]

2022年度「ぶんせき講習会」(発展編)

「Python を用いた機器分析データの解析
～入門からケモメトリックスまで～」

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇談会

協賛 (公社)化学工学会関西支部、(一社)近畿化学協会、(公社)日本化学会近畿支部、(公社)有機合成化学協会関西支部、(公社)高分子学会関西支部、(一社)日本鉄鋼協会関西支部、(公社)日本金属学会関西支部、関西分析研究会

汎用プログラミング言語の Python はデータサイエンスの分野で使われるライブラリが充実しており、機械学習用のライブラリである scikit-learn を使うことで、機器分析データのケモメトリックスによる解析を行うことができます。本講習会では、無料でダウンロードが可能な Python プログラミング環境の Jupyter Notebook を使って、CSV 形式の機器分析データを読み込み、定量分析（回帰）と定性分析（判別）を行えるようにします。

期日 2022年12月3日（土）13.00～16.30

会場 大阪電気通信大学寝屋川キャンパス J 号館 7 階 J708 演習室〔大阪府寝屋川市初町 18-8、交通：京阪本線「寝屋川市」駅より徒歩約 7 分

<https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/access/>

講習内容 Python の基礎と Python を用いたケモメトリックス・機械学習の基礎

対象者 機器分析は行ったことがあるが、ケモメトリックスの

ような高度なデータ解析を行ったことがない方。Python を使って機器分析データの解析を行ってみたい方。

講習プログラム

1. (実習) Python 入門

演習室の端末にインストールされている Jupyter Notebook を立ち上げて Python プログラミングを始めるところから説明します。この講習では、スペクトルやクロマトグラムといった機器分析データが保存された CSV ファイルを読み込んで、ベースライン補正のような前処理をし、学会発表や論文投稿に使えるレベルのグラフを出力するところまでを目指します。

(13.00～14.00/60分) (阪電通大) 森田成昭

2. (実習) トウモロコシの近赤外スペクトルを用いたタンパク質の定量分析

オンライン上で公開されているトウモロコシの近赤外スペクトルのデータセットを用いて、近赤外スペクトルとトウモロコシ中のタンパク質の関係を学習させ、得られた回帰モデルを使って未知試料の近赤外スペクトルからタンパク質を推定する演習を行います。ここではモデル構築（キャリブレーション）とモデル検証（バリデーション）についても学びます。

(14.15～15.15/60分) (阪電通大) 森田成昭

3. 実習) オリーブオイルの液体クロマトグラムを用いた偽物の判別分析

オンライン上で公開されている、偽物も含むオリーブオイルの液体クロマトグラムのデータセットを用いて、クロマトグラムとオリーブオイルの真偽の関係を学習させ、得られた判別モデルを使って未知試料の液体クロマトグラムから本物か偽物かを判別する演習を行います。ここでは混同行列を使った判別分析の結果の解釈についても学びます。

(15.30～16.30/60分) (阪電通大) 森田成昭

* 当日は演習室の端末を使って実践的なプログラミングを体験していただきます。

* 講習会終了後に復習できるよう、当日使用する Python プログラムは参加者の皆様に配付する予定です。

* COVID-19 の影響により開催方式を変更する場合があります。ご了承ください。

* 感染症対策をした上で演習室を利用していただきます。ご協力をよろしくお願いいたします。

申込締切 11月27日（日）、定員（30名）。お申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります。11月27日（日）以降のキャンセルは不可。

参加費 主催・協賛団体所属会員 10,000 円、学生 5,000 円、会員外 15,000 円

申込方法 参加を希望される方は、近畿支部 HP (<http://www.bunkin.org/>) から本講習会のページに入ってください、【参加申込フォーム】にて Web からお申し込みください。

* お申込み後、自動返信メールが届きましたら、開催日までに参加費のお支払いをお願いいたします。参加費は銀行口座（りそな銀行御堂筋支店、普通預金 No.2340726、名義：公益社団法人日本分析化学会近畿支部）にお振り込みください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区鞠本町 1-8-4 大阪科学技術センター 6 階 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail: mail@bunkin.org、近畿支部 HP : <http://www.bunkin.org/>〕

問合せ先 大阪電気通信大学 森田成昭
[E-mail: smorita@isc.osakac.ac.jp]

LC シニアクラブ (LC Senior Club, LCSCL) 設立総会

主催 LC シニアクラブ

協賛 LC 研究懇談会

後援 (公社)日本薬学会, (公社)日本化学会, (公社)日本分析化学会, (公社)日本農芸化学会

(公社)日本分析化学会には、定年になられた方々や定年間近な方々の集まりとして「人生談話会」があります。定年を機に退会されたり、活動を止めたりする方々が少なくないことに鑑み、元気で居られる間は仲間と大いに楽しもうという趣旨です。この会は分析化学討論会や分析化学会年会の開催に合わせて、全国から分野を超えて集まり、開催地区の重鎮による講演を拝聴し、夕刻から懇親会を開催して旧交を温める時間を楽しんでおります。「LC シニアクラブ」(入会費・年会費無し)は、そのLC版ともいべき集まりです。全国を巡ることはせず、液体クロマトグラフィー (LC) 研究懇談会の支援を得て首都圏を中心に集まり、コロナ禍が続けばZoom ミーティングを利用して、人生の再出発とその後の質の高いQOLを応援するプラットフォームとして活動します。

日時 2022年12月3日(土)13時~17時

会場 Zoom ミーティング

プログラム (総合司会: 岡橋美貴子)

13.00~13.50 (進行: 中村 洋)

第1部 設立総会

- ①開会挨拶
- ②設立趣旨説明
- ③事業内容等紹介
- ④役員紹介

13.50~14.50 (座長: 三上博久)

第2部 記念講演

「アミノ酸をつくる、つかう、はかるで負けない」をめざして (AS Frontiers) 宮野 博

14.50~15.00 (休憩)

15.00~16.30 (進行: 熊谷浩樹, 榎本幹司)

第3部 参加者による話題提供 (近況報告, 提案など) と質疑応答

16.30~17.00 (進行: 竹澤正明)

第4部 次回開催へ向けてのご希望とご提案

参加費 1,000円

参加申込・参加費納入締切日 2022年11月25日(金) (入金締切時刻: 15時)

申込方法 1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、(元)勤務先(連絡先電話番号)、LC研究懇談会の会員/非会員を明記の上、お申込みください。2. お申込みが完了次第、登録されたアドレス宛に「申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、連絡先までお問い合わせください。3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に参加費の納入を行ってください。期限内に参加費納入が確認できない場合、参加申込みを無効とし参加URLを発行しませんので、十分ご注意ください。4. 参加費の納入が確認できた方には、2022年11月26日以降に参加URLをお送りします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/KLy0LT3xGxxDJ5nS8>

振込先 りそな銀行・五反田支店(普通)1754341 口座名: シャニホンブンセキカガクカイ [公益社団法人 日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会]

連絡先 LCシニアクラブ [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

第32回基礎及び 最新の分析化学講習会と愛知地区講演会 —遠くても近くても、センシング・ハンドリング—

主催 日本分析化学会中部支部

共催 名古屋工業大学

協賛 日本分析化学会高分子分析研究懇談会, 日本金属学会東海支部, 日本鉄鋼協会東海支部, 日本化学会東海支部, 化学工学会東海支部, 高分子学会東海支部, 色材協会中部支部, 触媒学会西日本支部, 繊維学会東海支部, 電気化学会東海支部, 日本原子力学会中部支部, 日本ゴム協会東海支部, 日本接着学会中部支部, 日本セラミックス協会東海支部, 日本繊維機械学会東海支部, 日本農芸化学会中部支部, 日本防錆技術協会中部支部, 日本薬学会東海支部, 日本油化学会東海支部, 表面技術協会中部支部, 有機合成化学協会東海支部, 東海化学工業会, 愛知工研協会, 東海無機分析化学研究会

新型コロナウイルスのパンデミックは、これまでの働き方を大きく変えるきっかけとなりました。この変化は研究・開発においても例外ではありません。従来、分析化学の測定と言えば、研究室や現場に出向き、実験装置や機器を直接操作することが一般的でしたが、ネットワークを介した遠隔測定やデータ解析が広がり始めています。本講習会では、リモートで行える測定法やデータ解析法に関しまして、基礎的な知識から最新の話題を得ることができます。既にリモート測定やデータ処理に携わっている方や、これから必要になる方に有用な内容となっておりますので、奮ってご参加ください。また講習会2日目の午後には引き続き愛知地区講演会として、最先端の分析化学測定法について、最前線で活躍される先生にご紹介いただきます。こちらにもぜひご参加ください。

期日 2022年12月8日(木)・9日(金)

会場 名古屋工業大学4号館ホール

第32回基礎及び最新の分析化学講習会—遠くても近くても、センシング・ハンドリング—

12月8日

10.00~16.40 講義

1. マイクロ流体電磁泳動システムによるプランクトン計測 (名工大) 飯國良規
2. イクロコントローラを利用した簡易分析装置。モバイル化、自動分析、リモート分析のために (福井県立大) 片野 肇
3. 省電力無線伝送デバイスとバイオ電池を組み合わせた自己駆動型バイオセンシングシステムの開発 (東京理科大) 四反田功
4. 大学等の研究設備を取り巻く現状と名工大の整備 (名工大) 山本義哉
5. リモート環境における分析業務の効率化 (島津製作所) 西村弘臣

12月9日

10.00~12.00 見学会

名古屋工業大学産学官金連携機構設備共用部門

愛知地区講演会—分析化学テイクオフ—

12月9日

13.30~16.40

1. 試料前処理剤の設計と流れ分析法への展開 (愛工大) 手嶋紀雄
2. 液液界面における電荷移動ダイナミクスと界面化学種のキャラクタリゼーション (金沢大) 永谷広久
3. イオンモビリティ質量分析法による合成高分子の分析 (名工大) 北川慎也

参加費 (基礎及び最新の分析化学講習会(愛知地区講演会は

無料))

分析化学会会員・共催 (一般)	6,000 円
協賛学協会会員 (一般)	7,000 円
非会員 (一般)	10,000 円
主催・共催・協賛学協会 (学生)	1,000 円
非会員 (学生)	2,000 円
テキスト (電子版) のみ	5,000 円

参加申込方法 <http://www.jsac.or.jp/~chubu/> から申込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、E-mail にて takada.kazutake@nitech.ac.jp 宛 (E-mail 件名に基礎最新申込とお書きください) に送信ください。参加費は折り返しご連絡いたします銀行口座にお振込みください。

申込締切 11月20日 (月), 申込多数の場合はこれ以前に締切ることがあります。

問合先 名古屋工業大学大学院物質工学専攻 高田主岳
〔電話: 052-735-5238, E-mail: takada.kazutake@nitech.ac.jp〕

——以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第 57 回真空技術基礎講習会

主催 (公社)日本表面真空学会
期日 2022年10月11日 (火)~14日 (金)
会場 大阪産業技術研究所本部・和泉センター
ホームページ <https://www.jvss.jp/>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル5階
(公社)日本表面真空学会 [電話: 03-3812-0266, FAX: 03-3812-2897, E-mail: office@jvss.jp]

プラズマ分光分析研究会第 117 回講演会 —持続可能なプラズマ分光分析研究会に向けての種探し—

主催 プラズマ分光分析研究会
期日 2022年10月13日 (木)
会場 八戸市友の会福祉会館および Zoom によるオンライン
ホームページ <https://plasma-dg.jp/>
連絡先 プラズマ分光分析研究会事務局 梅村知也
〔電話・FAX: 042-816-3001, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

第 245・246 回西山記念技術講座

「失敗しない評価・分析・解析技術の最前線
(不確定要素の理解と適切な手法の選択に向けて)」

主催 (一社)日本鉄鋼協会
期日 第 245 回: 2022年11月7日 (月), 第 246 回: 2022年11月14日 (月)
会場 第 245 回: CIVI 研修センター新大阪東 5 階 E5 Hall, 第 246 回: 早稲田大学西早稲田キャンパス 63 号館 2 階会議室
ホームページ <https://www.isij.or.jp/event/event2022/nishiyama245.html>
連絡先 (一社)日本鉄鋼協会 育成グループ [電話: 03-3669-5933, FAX: 03-3669-5934, E-mail: educact@isij.or.jp]

日本磁気科学会第 16 回年会

主催 日本磁気科学会
期日 2022年11月7日 (月)~9日 (水)
会場 日本大学生産工学部 60 周年記念棟 6 階 Spring Hall
ホームページ <http://www.magneto-science.jp/16th/index.html>
連絡先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 機械工学科 安藤 努
〔E-mail: cst.magnenkai16@nihon-u.ac.jp〕

生物発光化学発光研究会第 37 回学術講演会

主催 生物発光化学発光研究会
期日 2022年11月12日 (土)
会場 和歌山県立医科大学薬学部 大講義室

ホームページ <http://www.blcl-ja.com/>
連絡先 〒640-8156 和歌山市七番丁 25-1 和歌山県立医科大学薬学部 中津 亨 [E-mail: 2022.blcl@gmail.com]

(公社)日本分光学会第6回 MAIRS ワークショップ

主催 (公社)日本分光学会
期日 2022年11月18日(金)
会場 京都大学化学研究所
ホームページ <https://www.bunkou.or.jp/>
連絡先 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学化学研究所 長谷川健 [電話: 0774-38-3070, FAX: 0774-38-3074, E-mail: htakeshi@scl.kyoto-u.ac.jp]

第12回イオン液体討論会

主催 イオン液体研究会
期日 2022年11月24日(木)・25日(金)
会場 宮地楽器ホール
ホームページ <http://www.ilra.jp/>
連絡先 イオン液体討論会事務局
[E-mail: ionicliquid@officepolaris.co.jp]

第37回分析電子顕微鏡討論会

主催 (公社)日本顕微鏡学会分析電子顕微鏡分科会
期日 2022年12月8日(木)・9日(金)
会場 オンラインでの開催 (Zoomを予定)
ホームページ <http://zaiko13.zaiko.kyushu-u.ac.jp/>
第37回分析電子顕微鏡討論会
連絡先 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 ウエスト4号館638号室 九州大学大学院工学研究院材料工学部門 分析電子顕微鏡討論会事務局 佐藤幸生 [電話: 092-802-2971, E-mail: sato.yukio.690@m.kyushu-u.ac.jp]

「分析化学」特集

“マイクロ・ナノ分析化学の新展開”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、マイクロ・ナノ化学分析研究懇談会と共同で「マイクロ・ナノ分析化学の新展開」と題した特集を企画しました。マイクロ・ナノ化学分析は、測定対象の微量化・微小化に資するデバイスやシステムはもとより、微小領域の観測や定量に関する計測法や分析技術を対象としていることから、分析化学のみならず分子生物学や細胞生物学、臨床医学などの広範な研究分野で活用されています。最近では、精密分析だけでなく、簡易分析にも広がりを見せています。また、マイクロ・ナノデバイスの新しい作製法、装置・測定法の開発、実試料の前処理法、既存分析装置との融合など、さまざまな開発が進められています。

このような背景に鑑み、本特集号では、マイクロ・ナノ分析化学の新展開に関する論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切: 2022年9月30日(金)

特集論文原稿締切: 2022年10月28日(金)

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第22回若手研究者の初論文特集” 募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2023年(第72巻)に第22回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」年間特集 “流”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻(2023年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の9号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「流」に関連した分析化学的基礎・応用に関する論文。例を以下に示します。1) 液体や気体などの流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2) 連続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、3) 製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応用、4) 電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5) 原子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学的研究。

特集論文原稿締切: 2022年11月18日(金) (第2期)

「分析化学」編集委員会特集 “ウェルネスに貢献する分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2023年度(第72巻第6号)の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。

本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切: 2022年10月7日(金)

特集論文原稿締切: 2022年12月2日(金)